

ARSC NEWS

The Newsletter of the Applied Regional Science Conference

応用地域学会ニュースレター（日本語版），No.46, June 2001

ARSC 事務局：〒162-0485 東京都新宿区市ヶ谷本村町 2-9
（財）計量計画研究所
応用地域学会事務局 文部省学会コード = 10014
会長：金本良嗣、 担当：宮本成雄
TEL: (03)3268-9692
FAX: (03)3268-9919
E-mail: clerk@arsc.org

主要項目： 新会長の挨拶
副会長選挙の結果
第15回研究発表大会のご案内
2000年度学会決算
2001年度第一回運営委員会の概要
会員だより
事務局だより

1. 新会長挨拶「応用地域学会の更なる発展を目指して」

第8代会長 金本良嗣

本年の4月から2年間の予定で応用地域学会の第8代会長を務めさせて頂いております。応用地域学会は、1987年の発足以来、歴代会長、運営委員、学会員の皆様のご努力のおかげをもちまして、世界に誇れる学術的水準を保ちつつ、現実の政策に有用で学際的な研究活動を行ってきました。これは、毎年行われる研究発表大会での活発な議論、及び応用地域学研究及びRURDS (Review of Urban and Regional Development Studies)における質の高い論文発表に表れております。私の能力でいかほどの貢献ができるかについて懸念を抱くところではありますが、力の及ぶ限り、さらなる発展に寄与していきたいと思っておりますので、ご支援のほど、よろしく願いいたします。

私が見るところ、応用地域学会のこれまでの主要な成果は、第一に、世界をリードする先端的な研究成果をあげてきたこと、第二に、文系及び理工系の研究者が同じ「言葉」を話しながら切磋琢磨するという真の意味の文理融合を実現してきたこと、第三に、大学の研究者とコンサルタント等の実務者が対話・協同することによって高度な研究成果を現実の政策に結びつけてきたこと、の3つであります。

第一の点については、前会長の藤田昌久氏の研究に代表されるように、海外の一流学術誌に発表されて、数多くのcitationがある研究が多いことが、その証拠となります。この高い学術水準を維持することができるように、世界的な評価を得ている研究者が、温かい心で厳しい切磋琢磨を主導し続けることが期待されます。年一回の大会の場における積極的な参加に加えて、いくつかの主導的な大学で行われているワークショップ(これの多くは応用地域学会ホームページに掲載されております)を充実させていくことが必要です。

第二の点については、ミクロ経済学の理論的な枠組みを工学系の研究者が活用したり、交通工学の基本的な概念、モデル、データを経済学系の研究者が使っていることが典型です。応用地域学会内の議論を聞いていると、各研究者の出身が工学系であるのか社会科学系であるのか分からないほどに共通の理解が進んでおります。政府や学術会議で文理融合のかけ声が大きい割に、実際には、異なったアプローチの単なる寄せ集めに過ぎないことがほとんどであることを見ると、応用地域学会のこの面での成果は突出しております。

第三の点については、毎年大会において、興味深いトピックについてシンクタンク・セッションが開催され、大学の研究者と実務者の双方が多数参加していることが、その一例です。都市地域に関する政策形成において、政策代替案の客観的な評価がますます必要とされてきております。そのためには、学会でも高度でかつ信頼性の高い分析ツールを開発する努力を継続する必要があります。

今後も、世界に誇れる最高水準の学術研究、真の文理融合の実現、現実の政策における有効性の確保、の3つの側面において、応用地域学会が優れた成果をあげるように、力を尽くすつもりであります。会員の方々の積極的なご参加・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

2. 副会長選挙の結果

2001-2002 年度 ARSC 副会長選挙は、2001 年度 3 月 20 日締め切りで実施されました。その結果は、2001 年度第一回運営委員会において森知也前事務局担当より以下の通り報告されました。

総投票数 158 票 (無効票なし)

得票数 井原健雄 73 票、柏谷増男 44 票、岡部篤行 41 票、

この選挙結果に基づき、**井原健雄**会員(香川大学)が副会長に選出されました。

3. 第15回研究発表大会のご案内

2001年度のARSC研究発表大会を、以下のような要領で北海道札幌市において開催致します。本年度も例年にも増した活発な発表と討論を期待しております。8月上旬の発表申し込み締切りに向けて、是非奮って応募くださいますようお願い申し上げます。

(1) 大会概要

日程：平成13年11月3日(土)～4日(日)

会場：札幌学院大学

(札幌駅よりJR大麻駅下車徒歩10分又は、新札幌駅よりバス10分)

大学ホームページ：<http://www.sgu.ac.jp>

会場に関する問い合わせ先：〒069-8555 江別市文京台11

札幌学院大学 経済学部 平澤亨輔

Tel:011-368-8111(内5220) Fax:011-386-8113

e-mail：hirasawa@sgu.ac.jp

参加費：2000円

(2) 発表の申し込み

申し込み

申し込まれる方は、以下の必要事項をE-mailで申し込み先までお送りください。E-mailの使用が困難な場合は、A4用紙1枚以内に事項を記載してFaxまたは郵便にてお送り下さい。

a.発表者氏名・所属

b.連名者氏名・所属

c.発表者連絡先 住所、Tel、Fax、E-mailアドレス

d.発表題目(和・英の両方)

e.要旨(和文200字、英語100語程度、できるだけ両方を記載)

f.発表時の使用言語(日本語または英語)

g.希望討論者(候補2名まで。ただし候補者に事前に了解を取る必要はありません。)

h.発表区分(一般セッション、Early bird セッション、シンクタンクセッション、
特定セッション)

発表申し込み先

東京工業大学国際開発工学専攻 上田孝行

〒152-8550 東京都目黒区大岡山 2-12-1 緑が丘 1 号館

Tel/Fax 03-5734-3597

tueda@plan.cv.titech.ac.jp**発表申し込み締切り****平成13年8月2日(木) 必着****(3)特定セッションの企画募集**

本年度も特定の論題を重点的に議論する特定セッションを設けたいと考えております。昨年度は GIScience(空間分析)のセッションが企画・開催されました。本年度も特定セッションを是非とも開催して活発な議論を展開したいと思います。特定セッションを企画される方があれば、自由書式で結構ですので、企画書を上記の発表申し込み先に 8 月 2 日(木)までにお送りください。

(4)セッション案と企画の募集

本年度大会では、一般セッション、Early Bird セッション、特定セッション、シンクタンクセッション、開催地セッションの区分に従ってプログラムを構成する予定です。

一般セッション

一般セッションは広く論題を求めています。以下に例年採り上げられているキーワードを挙げますが、それ以外でも ARSC 会員に有益と思われる報告は積極的に取り上げますので、よろしくご応募下さい。

地域問題：産業、地域成長、地域格差、労働・人口、地方分権、補助システム、国土計画**都市問題**：都市空間、土地利用、都市集積、外部経済、住宅立地、都市化、都市財政**交通**：都市交通、混雑税、TDM、航空・港湾、投資評価、物流、通信**環境**：影響評価、環境税、水質・大気汚染、地球環境、電力、資源管理、防災**国際問題**：開発援助、直接投資、通貨問題、貿易・関税

Early Bird セッション

このセッションは博士論文等を執筆している若手研究者や大学院在籍の学生会員が単著で申し込んだ発表によって構成されます。ARSC の将来を担う若手研究者による積極的な報告を期待しています。

特定セッション

このセッションは特定の論題を重点的に議論するためのセッションです。論点や方法論、対象が共通する論文数編で構成することになりますが、プログラム編成委員会は、このセッションの企画を募集しております。オーガナイザーを務めていただける方々からの積極的な応募をお願い致します。

シンクタンクセッション

ARSC では会員による研究成果を実務へ活用すること、そして、実務の中で発見された様々な問題を新たな研究課題として会員に紹介することの双方向の展開が重要であるという共通認識に立っています。このセッションは会員の中で特に計画、政策立案、それに関連する調査等の実務に携わっている方々からの報告や問題提起をもとに構成されます。賛助会員の方々をはじめとして実務の方々からの企画提案を期待しております。

開催地セッション

開催地である北海道をはじめとして、地域経済の再活性化に向けた有効な方策が全国各地で求められています。本年度は開催地北海道でこの問題に取り組んでいる専門家、そして、同様の課題を抱える他の地方で活躍する専門家を交えて多面的な議論を進めることを企画しております。開催校大会委員長の平澤亨輔会員のご尽力により現在準備を進めております。

(5)今後の予定

発表申し込み受付以後、プログラム作成や論文準備等のスケジュールはおおよそ以下のようになっていますので、よろしくご協力ください。

- | | |
|--------|----------------------------------|
| 9月第一週 | プログラム原案作成(座長・討論者調整) |
| 10月第一週 | プログラム確定・ニューズレターによる告知
論文草稿の事務局 |

4. 2000年度学会決算

前事務局担当：森 知也(京都大学)

2000年度学会決算を以下のようにご報告いたします。監査委員（瀬古美喜会員(慶應義塾大学)、徳永澄憲会員(筑波大学)）による監査後、本年度年次大会での総会にて会員の皆様への報告がなされ、最終承認される予定です。

応用地域学会2000年度決算書（2000年3月31日）

収入の部	2000年度予算額		2000年度決算額	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1. 繰越金	6,327,387	3,841.84	6,327,387	3,841.84
2. 個人会費収入	3,555,000	1,960.00	3,791,864	0.00
3. RSAI会費	865,820	0.00	767,820	0.00
4. 賛助会費収入	1,250,000	0.00	1,100,000	0.00
5. 大会参加費収入	300,000	0.00	1,003,000	0.00
6. 大会開催寄付金	0	0.00	300,000	0.00
7. 利子収入	0	0.00	2,576	6.93
8. 雑誌販売（Back Number）	0	0.00	35,700	0.00
9. その他	0	0.00	2,500	0.00
収入合計	12,298,207	5,801.84	13,330,847	3,848.77

支出の部	2000年度予算額		2000年度決算額	
	円貨	ドル貨	円貨	ドル貨
1. RURDS刊行費	2,128,620	0.00	2,263,900	0.00
2. 年報刊行費	700,000	0.00	709,280	0.00
3. 大会開催費	300,000	0.00	1,553,000	0.00
4. RSAIへの送金	777,344	0.00	965,736	0.00
5. 名簿印刷費	400,995	0.00	6,594	0.00
6. ニュースレター等印刷費	138,600	0.00	74,173	0.00
7. 郵送費	283,700	0.00	193,060	0.00
8. 一般事務費	630,000	0.00	287,822	0.00
消耗品	(100,000)	-	(43,352)	-
謝金	(500,000)	-	(238,260)	-
銀行手数料	(30,000)	-	(6210)	-
支出合計	5,359,259	0.00	6,053,565	0.00
繰越金	6,938,948	5801.84	7,277,282	3,848.77

5. 2001 年度第一回運営委員会報告概要

事務局担当：宮本 成雄((財)計量計画研究所)

2001 年度第一回運営委員会が 5 月 26 日に行われました。議事録の詳細が必要な方は事務局までお知らせ下さい。以下に、議事の要点をご紹介します。

・副会長選挙結果報告(別掲)

・決算報告(別掲)

・RURDS 出版関係

坂下 RURDS 編集委員(RURDS 編集委員長)より、RURDS 出版に対して、本年度科学研究費として、90 万円の支給を受けることの報告があった。また、坂下編集委員長は、第 13 巻までの出版に携わり、14 巻以降については、つくば大学の土井正幸先生が担当されるとの報告があり、土井先生からは、RURDS の編集委員会規約を作って対応していく旨の報告があった。

・応用地域学研究出版関係

2001～2003 年度の編集委員長には、黒田達朗先生(名古屋大学)が、小林潔司先生(京都大学)の後任として就任された旨の報告がありました。また、編集委員会に編集幹事を新設する旨が報告され、運営委員会として承認されました。

新編集委員会のメンバーは以下のとおりです。現在編集中の第 6 号刊行後からの交代となります。

編集委員長：

黒田達朗(名古屋大学) (新任)

Advisory Editor：

Borje Johansson (Jonkonping International Business School)
(留任)

編集委員：

赤松 隆(東北大学) 林山泰久(東北大学) (留任)

大河原 透(電力中央研究所) 小長谷一之(大阪市立大学) (新任)

編集幹事(新設)：

佐藤泰裕(名古屋大学) (新任)

(退任) 田淵隆俊(東京大学) 石川義孝(京都大学)

また、第6号の出版は、8月上旬の発行を目途に準備をすすめている旨の報告があった。

・本年度研究発表大会について

2001年度の大会プログラム編成方針並びに、大会プログラム編成委員会について、上田孝之委員長から、また大会準備状況について、平沢亨輔大会委員長から、報告があった。(別掲、大会案内参照)

なお、大会プログラム編成委員会メンバーは以下のとおりです。

大会プログラム編成委員会

委員長：	上田孝行（東京工業大学）	全体総括
委員：	平澤亨輔（札幌学院大学）	開催校・開催地セッション担当
	国久荘太郎（(財)計量計画研究所）	シンクタンクセッション担当
	佐藤徹治（(財)計量計画研究所）	アーリーバードセッション担当

6. 会員だより

地域科学関連研究機関のご紹介を引き続き行っていきたいと思います。今回は、賛助会員の中央復建コンサルタンツ株式会社のご紹介です。なお、会員だよりでは、皆様のご意見など投稿をお待ちしております。

中央復建コンサルタンツ株式会社

1. 社の沿革

社団法人から株式会社に

弊社は、戦後間もない昭和21年6月に(社)復興建設技術協会の設立を許可され、その後、昭和21年8月には、同協会近畿支部を発足設、昭和34年4月に同協会より建設コンサルタン業務を継承して、(株)近畿復建事務所を創立、昭和41年7月に中央復建コンサルタンツ(株)に商号変更して今日に至っております。総職員数は約500人、そのうち工学博士10人、技術士は126人を擁しています。

パートナーシップ経営で独立・中立

弊社は、役員・社員によるパートナーシップ経営で、特定の銀行やゼネコンによる支配は全くありません。建設コンサルタントは、独立・中立の立場で仕事をする必要があるため、これは大変重要なことです。

平成10年にISOを取得

平成10年中に、ISO9001と14001の2つの認証を取得し、平成13年に大幅な見直しを行いました。ISOを適切に運用することにより、品質の向上と環境の改善を着実に進めています。

2. サービス部門

計画環境本部

都市とそれを支える各種のインフラ整備の構想・計画・概略設計・環境アセスメント等が主な仕事です。今年度は、第4回京阪神都市圏パーソントリップ調査の2年目の年にあたり、昨年度の実態調査結果のデータ分析等を精力的に行います。

総合第1本部

道路、河川、橋梁、トンネル、上下水道等の測量・土質調査・計画・設計・施工管理・施設保全まで一貫したサービスを行っています。社内で最大の事業部です。

総合第2本部

鉄道系の業務を中心として、港湾系・建築系・補償系業務等を幅広く行っています。環境との共生をも視野に入れ、都市の再生・魅力ある街づくりに貢献しています。

東京本社

今年の5月に東京支社から東京本社になりました。それに伴い、計画環境室・総合設計室・鉄道設計室を発足して顧客サービスを充実させることにしました。職員数は全社の1割ですが、質の高いサービスをモットーにしています。

海外事業本部

海外の交通マスタープランやフェージビリティ・スタディに関する業務を通して、発展途上国のインフラ整備に貢献しています。昨年度は、ブルガリアのソフィアにおける地下鉄延伸のフェージビリティ・スタディ等に参画しています。

中部支社

平成11年度に開設した中部支社では、各事業部と連携してわが社の技術力を結集し、中部地方の社会資本整備に取り組んでいます。昨年度は、中部新空港のアクセス鉄道整備に関する業務に精力的に取り組みました。

中国支社

開設4年目を迎えた中国支社は、更なる飛躍と顧客満足度の向上をめざして、地域に密着した業務態勢を充実させています。より安価・安全・かつ品質最良な成果品を迅速に提供すべく努力

しています。

神戸支社

今年度新たに発足しました。兵庫県方面の業務にさらなる意欲をもって取り組みたいと思いますので、ご支援をお願いします。

3. 新しい展開

建設コンサルタント業界のパイオニアとして常に時代の先端を切り開く社会的使命を自覚していますが、新しい世紀に入り建設コンサルタントの仕事は一層多様化し、総合的な分析力と高度な判断力が求められるようになりつつあります。今年5月より社会開発研究所を発足させ新たな社会ニーズに対するコンサルティングについての取り組みを本格化させました。PFI等の社会システム系、土壌浄化や構造物診断等の環境・維持管理系、CALS/EC整備等の建設情報系の新分野への事業展開も進めているところです。コンサルタントがますます必要とされるこの時代に、職員一人一人が高い志と誇りをもって社会に貢献する、我々はそんなコンサルタント像をめざしていきたいと思っています。

なお、弊社のホームページアドレスは、<http://www.cfk.co.jp>です。

〔文責：永野光三（東京本社）〕

7. 事務局だより

ARSC 会員現勢

2001年6月20日現在の会員数(昨年度総会以降の入会者を含む)は以下の通りです。

個人会員 435名(内、一般会員 366名、学生会員 69名)

賛助会員 14団体(総口数 24口)

地域科学に関連する分野の研究に興味を持たれている個人または団体が周囲に居られましたら、是非入会をお勧め頂くようお願い致します。個人会員用の入会申込書は ARSC のホームページ(<http://www.arsc.org/arscform-j.html>)より入手可能です。また、Email によるお申し込みも受け付けておりますので、記入事項を ARSC ホームページにてご確認の上、必要事項を記入して clerk@arsc.org 宛てに Email でお申し込み下さい。

新事務局

京都大学より、(財)計量計画研究所が新事務局を引き継ぎました。何かと不慣れで、会員の皆様にはご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、鋭意、皆様のお役に立てる事務局として頑張ってゆきたいと思っております。(宮本成雄、手塚えい子)